

授業の様子から



【1年】生活科
自分が今年度できるようになったことは何かを話しています。「でんぐり返り」や「たし算・ひき算」など、楽しそうに話していました。

【2年】体育
全員で長縄を跳んでいます。「1、2、3」と、連続して跳ぶ数を数えながら挑戦。80回以上跳んで、体育館に歓声が響き渡りました。



【3年】算数
求めた式の意味を言葉で表現させています。式を読み取る力を育てることは、数量関係を捉えて式に表す力を育てることにつながります。

【4年】社会
タブレット学習支援ソフト「ミライシード」を活用して、個別学習をしています。自分のペースで学習の振り返りができます。



【5年】算数
正八角形を正確に書く方法を学習しています。正八角形の特徴を確認した上で、分度器やコンパスを活用して書いていきます。

【6年】算数
中学校での学習を見越して、プレテストを実施中です。各自のスピードに合わせて集中して取り組んでいます。

先々週、教え子の42歳の厄除けの同窓会に呼ばれました。約10年ぶりの再会でも招待されたので約33歳の厄除けの時。地元を離れた人もいるため、29名と当時の生徒数の3分の1程度の参加でしたが、久しぶりの再会に教え子たちと近況報告をしたり、思い出話に花を咲かせたりして、楽しいひとときを過ごしました。会も終わり、家路に向かう中、何かやり残した感がありました。それが何かはすぐに見つかりました。それは、校歌を歌わなかったことでした。校歌は学校の顔です。若い時分、新しい学校に赴任する度、何よりも早く覚えようとしたのが校歌でした。自分の教師としてのスタートとなった小坂町での教員生活。毎朝、校歌が校内に流れ、一日が始まる小坂中学校。私はとりわけ3番の歌詞が好きでした。「大煙突も溶鉱も 伸びゆく日本にさきがけすむ...」かつての町の繁栄の象徴だった小坂鉦山も当時はその形跡を残すのみでした。それだけに歌い継がれてきた歴史の重みを感じさせるフレーズでもありました。国語の授業での、ある生徒の作文が思い出されます。「私は小坂中学校の校歌を忘れない。たとえ自分が故郷を離れたとしても、故郷が今と姿を変えたとしても、校歌があれば思い出すことができるし、校歌のもともと集まることのできるから。」

現在、学校の統廃合が進み、地元に戻れば、あつて当たり前だった母校がなくなる現実には心痛めている人は少なくないはず。しかし、自分が戻る場所がなくなっても、自分の心の中に「戻る思い」だけはもち続けたいものです。それは、何年経っても決して変わることはない、自分の支えとなつてくれるものであるはず。先生、次は10年後ですよ。」

年齢を重ねた先にどのような未来が待ち受けているかは分かりませんが、10年後は、全員で高らかに校歌を歌うことができたらと思っています。

つづき
もち続けたい「思い」

